

相馬御風
生誕140年
140th Anniversary御風
さん
四季折々

〈「金の鳥」3月号表紙〉

先月号では、親不知の雪崩災害について書きましたが、その1年後に発表されたのは、童謡「春よ来い」でした。今年は発表から100年になります。こんなに歌い継がれてきた色褪せない春待ちソングってほかにありますか？

No.
2

「春待つ心と幼子へのまなざし」

大正12(1923)年、児童雑誌「金の鳥」3月号に発表されたこの童謡の作詞は御風さん、作曲は弘田龍太郎さんです。

文学史、音楽史のなかでは、大正7(1918)年から始まった「赤い鳥童謡運動」という動きのなかでの発表です。ざっくりいうと、鈴木三重吉創刊の児童雑誌「赤い鳥」を契機とした、芸術性の高い子ども向け音楽作品の創作を推し進める運動で、いくつかの類似雑誌が刊行されました。「金の鳥」もその一つです。

総じて、高等教育を受けた文人の作詞、東京音楽学校(現在の東京芸術大学)卒業生の作曲による作品が多いのが特徴です。

「春よ来い」は、赤と桃を春の胎動色として鮮烈に印象づけます。「じょじょ」は“ぞうり”、「おんも」は“おもて=屋外”のことですが、これら幼児語を使う斬新さも評価されています。

そして、御風さんと他の童謡作家との違いは、やはり良寛さまを心から敬慕し、その生き方に学ぼうと努め得られた児童観ではないでしょうか。

「幼な児の心は尊い」と御風さんは言います。子どもたちと毬をつき、凧をあげ、かくれんぼをした良寛さま。「春よ来い」の詩は、まるで良寛さまの慈愛に満ち溢れているようです。

近年では、松任谷由実さんの「春よ、来い」に童謡の一節「春よ来い、早く来い」がバックコーラスで使用されており、その詞が持つ力を再認識させられます。

雪に閉ざされた長い冬、親不知の雪崩災害、阪神・淡路大震災、東日本大震災…。幾たびも折れる寸前の心を潤してきた童謡「春よ来い」—それがこの地で誕生したことは私たちの誇りです。

次号へつづく >>

問合先 文化振興課 文化行政係 ☎552-1511

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 全国大会出場おめでとうございます! ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



JOCジュニアオリンピックカップ 第36回全国都道府県対抗中学 バレーボール大会

*新潟県代表の一員として出場

小澤 風雅 選手(糸魚川中学校3年生)

支えてもらった保護者や監督たちに感謝し、自分が今できる最高のプレーをし、監督たちを最高の舞台に連れていきたい。

竹田 尊飛 選手(能生中学校3年生)

今まで支えていただいた皆さんに感謝し、持ち味の高いライト攻撃を生かして勝ちたい。



(左から)
霧本教育長、小澤選手、竹田選手、糸魚川市スポーツ協会
清水会長

問合先 生涯学習課 スポーツ振興係 ☎552-1511